

平和の大切さ

読谷小学校六年

五寄 千季

私達は今の平和です。戦争の時には出来な

い事が平和な時代では出来ず。それは食

糧に余裕がある事。勉強が出来ず。毎日家族や友

達に会えたり遊べたりする事です。反対に戦

争の時には食糧が無かったり。家族や友達

に会えない。さびしい日々が続きます。

私は戦争と言えれば沖繩戦といろいろイメ

ジしお思い。いつまでした。でも先生が

ある一冊の本を読んだ。これを見た。そこで

戦争は沖繩だけでなく、在島・長崎を含め

日本全国で多くの被害があった事が分かりま

した。

私達は平和学習に行きました。平和学習

では平和記念資料館に行きました。資料館

では戦争当時の生徒の持ち物などが展示さ

れていました。

平和の礎では戦争で七千人の名

前加数多く刻まれました。平和の礎に刻

まれたい人数は約二十五万人にも上るという
 です。しかも現在でも毎年毎年刻まれて
 いる人数が増えているというところでは、
 刻まれている人の中には敵であつた
 米軍の名前も刻まれています。敵味方関係
 なく平和の礎に名前が刻まれているのは、
 とてもすごい事だと思ひました。
 この平和学習を通して私はある一つの疑問
 を持ちました。それは、いつ沖縄戦が始
 まつたのか？と。という疑問です。

私は、学校で配られた新聞を見ていくと、
 疑問の答えが見つかりました。沖縄戦が始ま
 ったのは、一九四五年四月一日でした。しか
 ち米軍（アメリカ軍）が一番始めに上陸し
 た所が、私が住むこの読谷村でした。この
 読谷村に上陸した日付も四月一日。沖縄戦
 が始まつてすぐにはこの読谷村に米軍が上陸し
 た。読谷村には、いくつかの、かマレと呼
 ばれる戦争中は、そのかマレ

の中で米軍に見つかりたいように息を
めてかくれていたそうです。その読谷村の
マの中に「千ヒ千リかマ」ヒ「シムクカ
と、いうかマがあります。千ヒ千リかマ
は、
阿くの人ト加七くなりぞせいと何「た
す。一方、シムクカマでは、東語か
る人がいたため、全員無事だ、た
この少しのちかいで生死が分かる
うしさを感じました。

私はこの作文をかいて、戦争は二
度と
やってはいけない。平和かあ
と、いう世界を作っていきたいです。